令和２年度　研究助成審査会選考結果

助成期間　令和２年７月６日～令和３年３月 31 日

京友会令和２年度研究助成事業について、鳶野克己委員と西岡加名恵委員により審査が行われた。応募は 12 件あり、申請書にもとづいての審査を行い、研究目的・研究計画・助成金の用途・研究業績書・指導教員の推薦書の記載にもとづき、研究内容の説明の明瞭性や研究計画・助成金の用途の妥当性などを協議した。

その結果、うち 10 件を研究的な価値が認められ一定の水準に達しているとして採択し、①研究計画に示される研究方法についての明瞭性、②申請された助成金の用途の研究計画に対する妥当性、③募集要項に対する申請内容の妥当性、などを考慮し、予算上の上限額の範囲内で配分の判断を行った。

2020 年６月 22 日　審査委員　鳶野克己・西岡加名恵

助成者	学年	講座	指導教員名	研究課題
王（おう） 令薇（れいび）	D1	教育社会学講座	佐藤　卓己	学校教育改革をめぐる公共的議論への大衆参加のメディア史－安定成長期に着目して－
鎌田（かまだ）　祥輝（よしき）	D1	教育・人間科学講座	西岡加名恵	英国における市民のための科学教育の成立と展開――1970年代のゼネラルサイエンスの位置づけに着目して
Kang（かん） Nan（なん）（康　楠）	D1	教育認知心理学講座	齊藤　智	日本語単語の音韻処理における意味記憶の関与 －日本語を第二言語とする中国人学習者を対象に－
三田（みた）　桂子（けいこ）	D1	連携教育学講座	松下　姫歌	砂漠の国の説話に描かれるパトスと物語構造に関する心理臨床的研究
篠原（しのはら）　史生（ふみお）	M2	教育・人間科学講座	田中　智子	戦前期救護法下における京都の精神病者処遇
椎名（しいな） 健人（けんと）	D2	教育社会学講座	竹内　里欧	上田敏とその時代--師弟関係と文学史的評価--
田岡（たおか）　大樹（だいき）	D1	教育認知心理学講座	楠見 孝	無謀な賭けの心理的メカニズムの解明 ―認知モデルの構築と個人特性との関連性の検討―
等々力（とどりき）　花歩（かほ）	M2	教育・人間科学講座	明和　政子	他者との行動同期が乳幼児の援助行動に与える影響 ―発達科学のアプローチによる検証―
澤田（さわだ）　和輝（かずき）	M2	教育認知心理学講座	野村　理朗	Awe and Identity
藤村（ふじむら）　達也（たつや）	D1	教育社会学講座	稲垣　恭子	戦後日本における受験文化の教育社会学的研究

令和２年度研究助成事業助成対象者コメント

－助成を受けて－

王　令薇

本年度の京友会研究助成事業に採択いただきましたことを、大変光栄に存じております。

私の研究関心は、日本における青少年をめぐる教育議論にあります。特に、学校教育にかかわる異なるアクター（例えば、日教組、文部省、研究者など）が一般大衆の教育議論への参加をどのように捉えていたのかを検討しようとしています。

先行研究では、教育議論の「内容」に注目するものは多く存在しています。非行やいじめなどの学校問題が大げさに報道されたこと、また臨教審以降の教育改革が前提としてきた認識枠組みに問題があることが批判されてきました。しかし、教育の問題をめぐる議論への一般大衆の参加と参加する手段、更にそれに異なるアクターが寄せた期待／懸念といった、教育議論の「形式」に関連する重要な問題に注目する研究はまだ少ないです。

また、大衆が教育改革をめぐる公共的議論にアクセスする重要な手段としては、当時すでに一般大衆に普及していたテレビというメディアに期待が寄せられました。政界や教育界における大衆の教育議論への参加に対する認識は、テレビの活用への期待と交錯していると考えられます。そのため、私は、テレビでの教育問題をめぐる報道・討論に対する政界や教育界の認識を取り上げ、総合的・比較的に考察する予定です。

いただきました助成金は、資料収集のための費用に充てさせていただきます。最終的に本研究の成果を京都大学教育学研究科に提出する博士論文に発展させる予定です。貴重なご支援に改めて深くお礼申し上げるとともに、有効に活用できるよう研究に邁進する所存です。

鎌田　祥輝

このたびは、令和二年度京友会研究助成に採択いただき、誠にありがとうございます。私は将来の市民を育成する上で必要な科学教育の在り方を探究しており、現在は、英国の中等教育段階における科学教育の歴史について、STS（Science, Technology and Society）教育の系譜に着目した研究を行っています。

英国の議論に着目する理由として、1960 年代以降、「万人のための科学教育はどうあるべきか」という問いに対応して、教育目標や内容について様々な論争があることが知られていることがあげられます。STS 教育は、科学・技術・社会の相互作用を扱う教育であり、科学が関わる社会問題を授業で取り上げることで知られています。STS 教育は、将来の科学者を育成するために科学に興味を持たせ、科学概念を身につけさせるものではなく、「科学とは何か」「科学者とはどのような人々か」などの理解を子どもに求め、科学以外の側面にも目を向けながら社会問題に対するディスカッションや意思決定を行うことを通して、将来の市民の育成を目指す科学教育でした。

このような英国の STS 教育は現代の科学的リテラシー概念にも影響を与えています。英国の STS 教育の理論・実践を明らかにし科学教育史に位置づける研究を通して、科学教育の在り方に対する示唆を得られると考えています。

いただいた助成金は資料収集のための費用に充てさせていただきます。貴重なご支援をいただいたことに改めてお礼申し上げます。本研究によって得られた成果は、論文執筆等により報告いたします。

康　楠

助成を採択されていただき，喜びと感謝の気持ちは一杯です。
私の研究焦点は日本語単語の音韻処理にありますが，特に単語の音読における意味記憶の関与は，第二言語として日本語を学習する人たちにどのように現れるのかを検討しようとしています。例えば，「近道」という日本語漢字単語は，構成漢字の複数の発音の中，「ちかみち」という正しい読み方を取るには，その言葉における意味知識の関与が必要となります。そして認知的意味障害症を罹患した日本語母語話者は「きんどう」という読み方が圧倒的にみられ，それは一つ一つの漢字に対応するより一般的な音読みを取るしかない結果であると考えられます。このような現象は LARC エラーと呼ばれ，これまでの研究は中国人第二言語学習者においてもより一般的なエラーであると発見されました。一方，中国語における漢字単語の読み習慣，または学習者の習熟度といった点も意味記憶の関与に影響を及ぼしているではないかと考えられます。これからの研究計画では，このようなエラーの生起や類似の現象を検討することで日本語学習の認知メカニズムをよりよく理解することに微力を尽くしたいと考えます。
助成を受けることは，いつも丁寧な指導と温かい励ましをくださった指導教官先生，または京都大学教育学部同窓会からの応援のおかげです。この助成で今後の研究計画の実施に経済的な支えを提供することだけでなく，一人の研究者として，自分の研究に対する揺るぎのない自信感を持っていて歩いていけるような気もしました。今後もこの感謝の気持ちを忘れず，期待を裏切らずに研究を邁進していこうと思います。

三田　桂子

この度は，「砂漠の国（中近東）の説話」と「砂漠のイメージ」に関する心理臨床的研究へ京友会研究助成事業のご助成を頂き，深く感謝申し上げます。
砂漠の国は，緑豊かな日本から遥かに遠い異国に感じられることでしょう。しかし，事例研究論文を通読していますと，「砂漠のイメージ」がクライエントによって意味深く表現され，臨床家達が鋭敏に“なにか”を感じ取っている姿が多々描き出されています。外的に遠くにありながら，内的にリアリティをもつイメージなのではないか…，という想いから，砂漠の国の説話研究と国内の事例のメタ分析から構成する本研究を立案しました。
また，中近東の説話の舞台とは，キリスト教・イスラム教・ユダヤ教等を生み出した地でもあり，人類の争いの火種を抱え続ける臍とも言えます。この独特な風土に伝わる紀元前の古代メソポタミアの神話「ギルガメッシュ叙事詩」や，紀元後の説話「千夜一夜物語」などから，砂漠の国に息づく人々のパトス，時間感覚，方向感覚，価値観，死生観などを抽出し，砂漠における生について考察し，水と緑溢れる日本で表出される「砂漠のイメージ」の展開と意味について，事例を通じて具体的に検討してゆきたいと思います。
最後に，本助成金は文献収集費の一部として活用させて頂き，ご支援を励みにしながら，研究成果を学会発表や論文発表に繋げて参ります。

篠原　史生

今年度の京友会研究助成事業に採択いただき、誠にありがとうございます。
私の研究テーマは、戦前日本の精神障害者をめぐる歴史です。とりわけ、戦前京都において救護法という法律の

下で精神障害者がどのように処遇されていたかを明らかにしたいと考えています。救護法とは、現在の生活保護法に連なる法律で、貧困者救済を主眼とする救貧法でした。さらに同法は、方面委員と呼ばれた人々の日々の活動に支えられていたことも特徴でした。方面委員は、地域住民から選ばれた無給の名誉職で、地域の貧困世帯に直接訪問して救貧活動を実践した、いわば、戦前の日本において地域の末端で社会福祉事業を担った人々でした。当時の方面委員は、日々の活動のなかで貧困な精神障害者やその家族が置かれた状況を目の当たりにして、何を議論し、どのように行動したのか。当時の方面委員や行政担当者による議論や動向を整理し、その内実を明らかにすることが当面の課題です。

戦後の生活保護法と制度的な連続性を有する戦前の救護法による精神障害者者処遇の実態を解明することは、現在も続く「貧困」と精神障害者という古くて新しい問題を考察するためにも不可欠な作業だと考えています。

いただきました助成金は、資料収集のための費用に充てさせていただく予定です。貴重なご支援をいただけることに改めて感謝申し上げるとともに、有効
に活用できるよう研究を進めていく所存です。

椎名　健人

この度は京友会研究助成事業に採択くださり、誠にありがとうございます。
私の研究テーマは、京都帝国大学英文科(現文学部英語学英文学専修)の初代教授であり訳者・詩人であった上田敏と、その周辺人物の関係性についてです。夏目漱石と同じ 1903 年～1907 年に東京帝国大学英文科英文科講師を務め、漱石と同じ 1916 年に没した上田は、英文学者と作家を兼ねる知識人/芸術家として、生前から常に漱石と比較され、しばしば否定的に語られてきました。

経歴こそ酷似している両者ですが、当時の文壇において上田の属していた位置は、実際には漱石のそれとは大きく異なります。森鷗外、永井荷風ら現在「耽美派」にも分類される作家たちと上田の親密な関係性や、その中で生まれた文学サロン「パンの会」で共有された文明観は、漱石周辺で育まれた大正教養主義的価値観とは異なるもう一つの対立軸を明治・大正の文学界に形成していたというのが現時点での私の見通しです。哀れみと軽蔑によってのみ記憶される漱石の引き立て役。日本近代文学史におけるサリエリ。このような役割に留まらない上田の歴史的位置について考察したいと思っています。

いただきました助成金は、資料収集のための費用にあてる予定です。本研究で得られた結果は、学会発表及び論文執筆の形で発表いたします。温かいご支援をいただきましたことに改めて感謝申し上げるとともに、貴重な機会を有効に活用できるよう力を尽くす所存です。

田岡 大樹

この度は，令和 2 年度京友会研究助成事業に採択いただき，誠にありがとうございます。

私は，ギャンブルにおいて，人がリスクの高い賭け，すなわち，「無謀な賭け」を行う心理について研究をしております。無謀な賭けは，さらなるギャンブルを通じて損失分を取り返そうとする問題行動（負け追い）とともに，ギャンブル依存症の進行に関与していると考えられます。こうした行動の背後にある心理的なメカニズムを解明し，その抑制方法を開発することができれば，エビデンスに基づいたギャンブル依存症の予防が可能になると期待されます。

私は，ギャンブル中の認知プロセスを数理モデルとして表現することで，無謀な賭けの背後にある確率や価値の

判断を明らかにできると考えています。そして，これらの認知プロセスに，事前の勝敗経験や感情，個人特性といったリスク因子がどのような形で影響を及ぼすかを解明することで，効果的な予防法や介入法の提案につなげたいと考えております。

このような観点から，本年度は，1. 数理モデルの作成，2. 個人特性に焦点を当てたモデルの検証を行う予定です。頂いた助成金は，Web 上で行われる調査・実験の費用に活用させていただきます。本研究を通じて，当該分野の研究を大きく前進させられると確信しております。

貴重なご支援に改めて深く御礼申し上げるとともに，本研究が実りあるものとなるよう，全力で取り組んで参ります。

等々力　花歩

この度は、京友会研究助成事業に採択いただき、誠にありがとうございます。

私は、他者と行動を同時に行うことが、乳幼児の他者を助ける行動に与える影響について、研究を行っております。

ヒトは、血のつながりがない他者や見知らぬ他者を助けるという点で、特徴的な動物です。例えば、授業中にペンを落とし、手が届かず困っていたら、近くの人が拾って渡してくれた、という経験をしたことはないでしょうか。こうした他者を助ける行動（援助行動）は、生後 14 か月頃から見られるようになります。

近年、他者と行動を同時に行った場合、同時に行わなかった場合に比べて、援助行動が多く見られることが示されています。そこで、私は、他者と行動を同時に行うこと（行動同期）が、乳幼児の援助行動の表出にどのような影響を与えるのか、実証しようとしています。また、乳幼児の気質を評価する質問紙を用いることで、援助行動の表出や行動同期の影響における個人差についても明らかにしたいと考えております。援助行動の表出に関与する要因や、個人差について検討することは、様々な発達特性を持つ方に対して、社会的場面における発達支援や介入方法を考える上で非常に重要であるといえます。

いただいた助成金は、研究機材購入に充てさせて頂きます。貴重なご支援に改めて深く御礼申し上げるとともに、本研究がより実りあるものになるよう、今後とも邁進していく所存です。

澤田　和輝

この度は、京友会研究助成事業に採択くださり、誠にありがとうございます。私は、畏敬の念に関して、心理学調査・実験や神経科学的手法を用いて研究を行なっております。大自然等の、既存の認知的枠組みの更新を必要とするような広大な刺激に対する感情反応を畏敬の念と呼びます。従来、社会心理学の研究より、畏敬の念が、人々の「人生に意味がある」という感覚を高めたり、自身の高次な信念(例えば、有神論的信念)を強化したりすることが明らかにされてきました。これらは、畏敬の念が人々のアイデンティティ探索や発達を促すことを示唆します。現実場面に目を向ければ、しばしば畏敬の念を喚起する、宗教的儀式や聖地巡礼等が、通過儀礼として人々のアイデンティティの発達に役割を担ってきました。私は、未検討である畏敬の念とアイデンティティ発達との関連を実証的に検討したいと考えております。また、本研究課題は、道徳教育や観光産業への社会還元が期待される意義深いテーマであると考えております。いただいた助成金は、心理学調査の費用にあてさせていただきます。本研究によって得られた結果は、学会発表や論文執筆によって報告いたします。

藤村 達也

研究助成事業に採択いただき、大変光栄に存じます。私は現在、戦後日本の大学受験をめぐる文化にかかわる研究を進めています。これまで教育学において主に教育問題として扱われてきた受験を文化の観点からとらえなおし、受験文化が果たしてきた社会的機能を明らかにすることを目指しています。これまで行ってきた研究では大学受験予備校に焦点を当て、予備校において教養主義的な授業がいかなる役割を果たしてきたかを明らかにしました。予備校という空間と一見相容れないようにも思われる「教養」に焦点を当てて検討することで、一般的なイメージとは異なる予備校の姿を描き出すことを試みました。今後の研究では、さらに対象を受験雑誌や通信添削といった受験メディアに拡張して分析を進め、戦後日本の受験文化がいかなる文化装置として機能してきたのかを総合的に解明することを目指します。こうして受験文化に光を当てることは、日本の教育を深層で支えてきた日本型教育文化の特徴を明らかにすることにも繋がると考えています。いただいた助成金は、予備校や通信添削会社などの関係者へのインタビュー調査の費用に充てさせていただきます。今後とも研究活動に鋭意努力してまいります。